

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2277101131		
法人名	医療法人 社団一穂会		
事業所名	グループホーム ハイジの家		
所在地 (電話番号)	浜松市西区西山町520 (電話) 053-485-5008		
評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成20年3月28日		

【情報提供票より】(20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	13 人	常勤	11人, 非常勤 2人, 常勤換算 9.6人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 ALC 造り	
	3階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52,000 円	その他の経費(月額)	17,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日当たり 1,650 円			

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	3名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	5名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.6歳	最低	75歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西山病院 小山歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

県西部、浜松市郊外の自然に恵まれた環境の中、医療法人施設が点在する一角にある。職員は常に法人共通の理念(気持ちのわかる親切・和やかな雰囲気・清潔)を念頭に置き、利用者一人ひとりの状態や気持ちを尊重し、見守りながら支援することを心がけている。利用者は安全面に配慮された中、入居前の家具が持ち込まれた心地よい居室・広く明るい共有スペースで、自分のできる範囲で生き生きと役割を果たしたり、趣味の活動をしったりゆったりと過ごしている。医療法人事業所としてのメリットを活かし、医療面・重度化した時の対応には絶大の信頼がある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の地域交流・入浴回数・家族への情報提供などの指摘事項は理解しているが、管理者の体調不良や職員体制などへの改善に取り組めていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義は十分理解され、自己評価の記入には全職員で取り組み管理者の視点でまとめている。問題点は十分理解しており体制が整い次第改善に向け取り組む姿勢が見られる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会長・家族代表・区職員・地域包括支援センター職員・ホーム管理者・計画作成者・法人職員など多岐に渡る出席者により隔月に開催され7回を重ねている。事前に各々の出席者に日時・テーマを連絡周知し、意見が出やすい工夫をしている。ホームの現状・状況説明・介護上の工夫などを話し、出席者からの質問・提案を改善に向け意欲的に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議に家族代表が参加し、家族会の設置や家族アンケート実施などの意見・提案がなされている。面会時には気軽に声を掛けられるような関係作りを心がけ、苦情には真摯に取り組む話し合いの記録を残し、再発防止に努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人施設が点在する広大な敷地内の事業所であり、地域から離れているという立地条件が地域との交流を困難にしている。地域からの要望には法人が対応しており、事業所独自での連携は今後の課題となっている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念(気持ちのわかる親切・和やかな雰囲気・清潔)をホームの理念として共有している。	○	地域密着型事業所としてのホーム独自の理念をかかげられるよう考えられたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目に付く所に掲げられた理念を常に念頭に置き、モットーとして介護に取り組んでいる。また日々の申し送りで毎日、再確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所が法人グループの施設が点在する中にあるという立地条件もあり、地元住民との日常的なつきあいが希薄であり、地域の祭りや、法人主催の行事の際には地域住民との交流をはかっているが、地域活動への参加は行っていない。	○	自治会長が運営推進会議に参加し、顔見知りの関係作りができていますので、地域情報を収集し行事への参加や、地元の小中学校・幼稚園などとの交流、ボランティアの受け入れなど今後を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員共に評価の意義をよく理解し、自己評価には日頃の介護を振り返るよい機会と捉え全員で取り組み管理者の視点でまとめている。問題点を十分理解し、今後の課題として取り組む体制を整備している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年度末より隔月に開催され、すでに7回実施されている。自治会長・家族代表・地域包括支援センター職員・区職員・ホーム職員・法人職員など多様なメンバーで毎回テーマを設け、現状報告や質疑応答など活発な意見を交わしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人としての取り組みは多々あるが、ホーム独自として受託しているものは無い。利用者の相談には必要に応じて市町村と連携する機会が設けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に日々の様子や職員の異動を伝え、質問にも応じている。金銭収支は毎月毎に領収書を添付し伝え、年度末には一年間の出納帳を渡している。	○	個人情報に留意しながら、利用者のホーム内での日常生活ぶりを伝え、家族がより安心できるようホーム便りの発行や個々の手紙などを検討されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表が出席し意見を述べたり、面会時や介護計画説明時などに意見や質問を受けている。苦情には真摯に対応し解決に努め記録を残している。家族が意見を出しやすいように家族アンケートの実施を計画している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットを全職員で担当し、全員と馴染みの関係を作っているため、離職のダメージは少ない。異動は家族に面会時に伝えている。新人には指導職員とマンツーマンで同一の勤務体制がとられ、利用者との関係が出来るよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時には先輩職員と同じ勤務につき、実践を通じて初任者研修を実施している。外部研修では発表の機会を持ち、他の職員にも周知しながら、資質の向上に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム連絡会の理事として、他のホームと交流があり情報交換を行っている。	○	更に連絡を密にし、相互訪問などの活動を通してサービスの向上に取り組むことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談や利用希望があった時、法人の相談員が対応し、その後管理者も一緒に自宅を訪問する。またホームに来て、居室を見たりホームの雰囲気などに触れてもらうなどの機会を作っている。	○	今後、体験入居をし、夜間を体験してもらう機会を作っていく予定である。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者本人の意思を大事にして、見守り、待つことを心がけている。利用者から言葉遣いや家事の工夫などを教えてもらうなど、ともに過ごし支えあう関係作りを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の聞き取りや日々のかかわりの中で、また家族にも声かけて意見を聞き、一人ひとりの生活習慣や要望の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスやミーティングで、利用者の日頃の状況や思いを職員全員で意見交換したり、家族からも面会時に意見を聞き取り、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直し期間に応じた見直しの他に、変化があった時はカンファレンスで話し合っ決定し、緊急の際も柔軟に対応して介護計画を変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医以外の他科の診療が必要になった時には、家族の状況に応じて通院介助や付き添いなど柔軟に対応している。特別な外出を希望する利用者の要望などには、家族と利用者の調整役となり実現できるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医である法人の病院が同じ敷地内にあるので、必要に応じて臨機応変に対応でき、利用者や家族の信頼を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームだけで重度化や終末期の対応を考えず、法人全体で対応していることを入居時、家族に伝え理解を得ている。利用者の思いを尊重し、できる限りホームで過ごせるよう、日頃の健康管理や急変時の対応は職員で意見統一している。	○	利用者や家族の気持ちの揺れや変化に注意を払い、その安心と納得を得られるよう、状況の変化に伴い関係者の話し合いを繰り返していく積み重ねを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々、利用者のプライドやプライバシーを損ねない介護をすることを心がけ実践している。写真や記録など個人情報の取り扱いにも注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのしたいことを大事にし、ホールには趣味活動や娯楽の道具をいろいろ用意し、いつでも使えるよう傍に置いてある。喫煙の習慣のある利用者には場所を決め、職員が付き添って対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は法人全体で調理しており、ご飯はグループホームで炊き、盛り付けや後片付けを利用者と一緒に行っている。月一回利用者と食事を作る日にしたり、おやつを手作りにしてそれぞれの好みを入れる工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行っているが入浴ができるのは1人週2回で、それ以外の日は部分清拭を介助している。入浴を嫌がる利用者には気分を変えて、隣接する施設のお風呂に入りに行くなど工夫して支援している。	○	入浴できる時間帯が短く、一日に入浴できる人数が限られているため、利用者の希望に沿った入浴支援の方法を検討されたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後片付けや洗濯物たたみ、テーブルや洗面所の生け花などそれぞれができることを役割分担したり、折り紙や塗り絵、習字、読書、仲間ですらんぷを楽しむなど一人ひとりがしたいことをして過ごすことができるよう工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出時は職員が利用者に1対1で付き添っている。それぞれの身体状況に応じた方法や距離を考慮しながら、敷地内を散歩したり、隣接する施設を訪問したり、施設の売店で買い物などを行っている。	○	外出の機会や行き先が限られたものになっているので、利用者の気分や希望、その時の状況に応じた外出支援の取り組みを期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットの出入り口を施錠して、職員がさりげなくそのつど開閉している。家族にも説明を行い、理解を得ている。	○	安全面から施錠するようになったが、鍵をかけることを日常的事業とせず、日中職員の揃っている時間帯等、鍵をかけない工夫に取り組むことを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人の協力を得て避難訓練を実施している。グループホームには煙感知器や警報器を設置し、夜間などの緊急時は法人内での応援体制ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の栄養摂取量やバランスは法人の栄養士が管理し、利用者一人ひとりの食事や水分の摂取量は職員が毎日把握し記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く、大きな窓からの外光が明るい。不快な音もなく趣味活動の用具が置かれ生活感が感じられる。洗面コーナーには手拭タオルがたくさん用意され、使うごとに洗濯するなど清潔面にも配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に利用者や家族等が居室を見て、持ち込むもののレイアウトを検討している。居室には使い慣れたもの、大切にしているものが置かれ、居心地の良さを工夫している。		